

鶴田町行政推進員と町との意見交換会

～地域の **声** を町へ～



鶴田町行政推進員と町との意見交換会

皆さんの声が活力ある町をつくります。
4月27日(水)、国際交流会館ホールで『鶴田町行政推進員と町との意見交換会』が開催されました。出席した行政推進員の皆さんは、地区住民の声を代弁してさまざまな意見や要望を町に伝えていました。それでは、意見交換会の内容の一部をご紹介します。

【鶴田団地】

Q 団地内で町内会を退会したいと言った方もいます。町営住宅で住宅の管理上、入居の際に町当局が町内会に入るようにと(継続して入るように)アドバイス出来ないものでしょうか。

〔総務課長〕

A 町内会は、ご承知のとおりその地域住民で構成される自治組織、いわゆる自治会であります。住民が、その地域のため、自らの責任と行動のもとに共に支え合いながら地域の環境はじめ、歴史や文化を守り続けている大切な組織でもあり、退会することで地域内が疎遠にならないか危惧されますので、担当課から入居の際に町内会の置かれた事情を説明し、アドバイスをいたしますのでよろしくご協力をお願いします。

【境】

Q 今年もアメリカシロヒトリの発生があれば、集落で薬剤一斉散布を行う予定です。つきましては、町からの薬剤費の助成を期待します。

【A】

〔産業観光課長〕

昨年は、アメリカシロヒトリが広範囲にわたって発生したようであり、集落で初期の一斉散布をした場合の効果は理解できません。しかしながら、仮に助成となると一集落という訳にはいかず町全体に及ぶことになるほか、花木等は個人財産であり、それぞれ管理上の態様が異なるほか、薬剤の飛散による被害等(人的、物的)が発生した場合の責任等も想定されます。従いまして、一斉散布については、町内会による個人負担や会費等で賄うなどそれぞれの負担と責任のもとに町内会がまとめて散布することが望ましいものと思われれます。

【A】

〔まちづくり課〕

Q 融雪溝設置の件については、これまで要望してきておりますが、当町内会としては現在ほももろたではあります。将来的に暖冬小雪傾向にあるとはいっても雪対策はどうしてもさけられないと考えており、融雪溝の新

設を是非で検討いただくとお願いいたします。

【A】

〔建設整備課長〕

みどり町の大部分を占めるみどり団地は、青森県住宅供給公社で造成工事を行い宅地分譲を行った新興住宅地ではありますが、住宅戸数に対して道路幅員が極端に狭いため地区住民の皆様が雪対策に苦慮していることはみどり町からの除雪に対する苦情が飛び抜けて多いことから十分理解しているところであります。

さて、みどり町の融雪溝計画でございますが、みどり第三住宅団地を除いたみどり町全エリアについて整備すると融雪溝の整備延長は延べ約6kmとなり、送水管や中継ポンプなどの施設整備費等含まれますと概算工費は約5億5千万円が必要となります。このことから、町全体の事業バランスや他の事業との整合性を図りながら、財政の中・長期計画への組み入れを検討してまいります。

【A】

〔木箇〕

Q 保安橋や鶴舞橋から見ると、柳など繁茂したり千砂の堆積がとくに目立つ。これを取り除いて、水流をスムーズにしないと異常気象のもと想定外の洪水や堤防決壊が予想されます。関係機関に強く働きかけたい。

【A】

〔建設整備課長〕

町では、岩木川水系中流部の堤防を含めた河川改修事業について、今までも積極的に要望して

きておりますが、今後も引き続き強く要望してまいりたいと思っております。なお、河川改修等に対して、国土交通省が主催する「地域づくり懇談会」などさまざまな場面や会議に町長自ら出向いて、国土交通省を始め関係機関に直接働きかけしていることも併せてご報告させていただきます。

【鶴田町地】

Q ① つがる総合病院のことについて、鶴の里懇話会で質疑の回答を聞きましたが、患者の診療についてはインターネットを利用することで病院間の連携をすることですが、患者を移送する場合どのように対応するのか。今、一般に言われている初期の治療処置によって、後々の回復、リハビリ等が大きく異なるといわれています。移送手段、移送中の対応についてお聞きしたい。

(真南の方ではドクターヘリによる移送も行われているものもある。)

② 医師の配置内容について、どのようなのが。内科、外科はもちろんです。神経科関係、整形外科等の配置手配、看護士、理学療法士の配置、それと地域医師会との連携、連絡等の話し合いを取り付けているのか。

③ 診療所にした現鶴田町立中央病院をどのようにしようとしているのか。解体又は一階、二階等だけの使用にするのか。現在の病院では3カ月間で退院しなければならず、その後地域で、自宅での介護、看護と

いうことになり受け皿が足りないと思います。病気のためリハビリに介護看護に悩んでいる人が多くいると思うので、病院の建物が残るのであれば、ケアのためにリハビリ施設、ケア施設として活用してはどうかと思えます。そうすることにより安心してリハビリまたはケアもできる。雇用の関係でも役立つのではないかと思われる。

【町立中央病院事務長】

A ① の鶴の里懇話会での質問は、診療所化された鶴田病院で診察し、つがる総合病院に回された場合の対応のあり方についてでありました。

これまでは、紹介状を持って転院先で受診しておりました。今後は、つがる総合病院、鱒ヶ沢病院、金木病院、つがる市診療所、鶴田診療所の5つの医療機関で電子カルテ、オーダリングシステムを導入することになっていきます。鶴田診療所で受けた診療内容、検査項目、薬剤処方など基本的な患者情報を5病院が共有できることになり、待ち時間の短縮や患者の負担軽減に繋がることになります。

患者移送については、これまで通り、医師が救急を要すると判断した場合、町の救急車による救急搬送になります。

② のつがる総合病院の規模については、病床数434床、診療科については30科、医師数が45人の計画で、弘前大学・県の協力を得ながら調整を進めております。現段階ですべて決定というところま

では至っておりませんので、医師確保の面で今後若干の増減はあり得るかもしれませんが、計画達成に向けて努力してまいります。また、看護部門、療法士部門については、現在の5病院職員の配置換え等により、看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語療法士ともに人員不足になることはありません。

【医師会との連携につきまして】

は、平成22年8月に「つがる西北五地域医療連携検討委員会」が発足し、病院と開業医、介護福祉施設や在宅ケアとの連携、救急医療のあり方等を地域全体で支えるための体制強化を検討しています。検討委員会には圏域自治体病院の院長、北五医師会、西つがる医師会の代表、五所川原保健所長、弘前大学医学研究科地域医療学講座第一内科教授に参画いただき、医療分野における地域連携の強化について検討がなされております。

③ の現在の鶴田病院の活用方法について、解体するのか、補修して一部を使用するのかという質問ですが、まず、福祉関連施設への転用は、普通の建物に比べて耐震基準が厳しいこと、廊下スペースを広く取る必要があること、電気、給排水、冷暖房等の施設整備に新築同様の経費が見込まれること、などの難点があります。解体撤去の場合、25年度までの時限立法で、経費の1/2の補助が受けられることを含め、これらを総合的に判断すれば、新診療所建設後



解体撤去したいと考えております。跡地の利活用については、現在、副町長をチーフに関係課長で検討するよう町長から指示を受けております。ご質問の趣旨をふまえて、今後、専門家の意見、病院経営改善委員会等の意見も聞きながら、出来るだけ早い時期に町民の皆様にお知らせできるよう作業を進めていきたいと思っております。

平成23年度
鶴田町行政推進員
(4月27日現在)

派立	赤原俊一
寺町	太田聰
仲町	太田博由
本町	太田博由
駅前通り	太田博由
田中町	花田直造
桜田町	花田直造

松倉	西瀬	東瀬	稲元	米元	掛元	後野	前野	鶴田	木筒	間山	野木	田尻	尾原	稲川	桂井	山中	中野	胡境	強巻	大巻	新田	亀田	鶴田	菅川	大性	駅前	あさひ	みどり	相原	鷹ノ尾	文化	公園	富士
三戸	菊池	高苗	八木	中西	天坂	棟方	川村	木村	長尾	乗田	花田	須藤	笹野	須藤	中野	山郷	松山	須藤	成田	奥田	坂本	齋藤	鶴田	菅川	佐藤	小宮	宮本	工藤	三藤	鷹ノ尾	澤田	松田	伊藤
宗則	章弘	一政	喜代	鐵勝	良行	則光	廣四郎	金四郎	敏夫	精逸	勝雄	哲昌	清博	繁喜	榎秋	謙壽	信一	和惠	良八	保文	勝正	春義	源悦	良一	常義	行雄	央史	昭宏	正義弘	正義明	正義男	松田	伊藤